

## 編集後記

『尾道文学談話会会報』第二号をお届けします。

「暗夜行路草稿」は「暗夜行路」研究に欠かせない資料ですが、本号にその「4」のはじめの二十四葉を影印として掲載することができました。

「暗夜行路草稿4」の前半部は、志賀直哉の尾道到着後数日間の動向を知り、当時の尾道を垣間見ることのできる貴重な記録でもあります。たとえば、尾道到着後二日目となる大正元年十一月十二日、志賀直哉は四時半起床で五時十五分に宿を出て四国に渡っていること、その船中で「清兵衛と瓢箪」のもととなる話を耳にしていること、また当時尾道には瓢箪愛好家が多く、「尾の道で瓢箪を持つてない人はいない位の流行」であったこと、そして漁師町の婦人は「大きなたらひのやうなものを頭にのせて腰をふりくく歩いてゐる」ことなど、すべて志賀直哉の手跡によってこの「4」に書き留められています。

本誌創刊号で本学附属図書館収蔵『經盛家調合』を取り上げて論じた藤川功和准教授は、今号では本学の所有する別の写本『六百番歌合』について解説し、考察しています。

今回は「尾道文学談話会」に出席されている皆さんにも、聴講の感想に止まらず、談話会で取り上げられた作品等についてご自身の見解を書いていただきました。

「尾道文学談話会」は、尾道白樺美術館で月一度開催していますが、それはささやかな地域貢献になればとの日

本文学科の思いからです。同時に、啓蒙的な市民講座ではない、お茶を飲みつつ講師と市民が楽しく語らうこのような談話会も、日本文学科は意義あるものと考えています。今後とも皆様のご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

なお、本号の刊行も尾道大学学長裁量教育研究費によるものです。記して感謝の意を表します。

(T)

### 尾道文学談話会会報 第二号

二〇一一年二月一〇日 印刷  
二〇一一年二月二〇日 発行

発行者 尾道大学芸術文化学部日本文学科

印刷所 三原プリント株式会社

三原市和田一丁目五十一三

電話 (〇八四八) 六四一・一六四三

発行所 尾道大学芸術文化学部日本文学科

尾道市久山町一六〇〇

電話 (〇八四八) 二二一八三二一

表紙デザイン

尾道大学美術学科准教授 高岡 陽 (たかおか・よう)